

一茶ゆかりの里四季の俳句会（平成二七年度七～九月分）

選者 高山俳壇 勝山久峰先生

特選 天寝てる子の笑うえくぼやさくらんぼ 群馬県 竹渚千恵子

何か美味しい夢でも見ているかも知れない寝顔の笑くぼがさくらんぼを引き立てて呉れた。

特選 地亡き父の形見着ている案山子かな 群馬県 滝沢照香

亡き父の思ひ出多き古着古くなって父の威厳は生きている豊作の約束される希望作。

特選 人ひぎの児を笑顔に涼風あやしいる 群馬県 竹渚てる子

心地良い涼風が稚児をあやしてくれた自然の恵みが家庭を暖かくして呉れた。

入選 夏まつり引く孫の手の心地良さ 群馬県 山口岩美

入選 一仕事終えて冷えたか西瓜食ぶ 群馬県 岡村妃呂子

入選 夕端居にわかにか浮かぶ母の貌 群馬県 清水一静

入選 ひまわりや青空高く咲きほこり 長野市 永井茂富

入選 濃く淡く一茶の筆や涼新た 長野市 清住弥生

入選 涼新た句帳の和綴締めなおす 愛知県 平野辰美

入選 眺望の山また山や茸狩り 高山村 高野悠子